

イーグルスミコーポレーション

環境変化捉え成長めざす

イーグルスミコーポレーションはビジネスの多様化、さらなるグローバル化を進めながら2013年度決算を2ケタの増収増益で終えた。経営環境が変わりつつあるなか「売上高をあまり意識せず、利益ベースで稼ぐ(住吉徹社長)ことを推進し、事業基盤の育成を図っていく」。

同社のコアビジネスである有機化学品事業は、昨今の石化業界再編の流れを受けて海外では上海現地法人が単独息子化する見込みとなり、「ビジネスの芽がよやく出てきた」ことから、引き継ぎウレタン原料、電子・液晶やフラインセラムックス分野で事業拡大に取り組み。また韓国現法などと三国間貿易の拡大を目指すとともに、日本を含むアジアを一つの戦略市場と位置付け、その一環として東南アジアでの拠点設置を視野に入れる。

来期は中期5カ年計画の最終年度であるとともに、イーグルスミコーポレーションが合併誕生してから10周年という節目の年にあたる。最終目標の売上高343億円、経常利益2億5000万円の達成に向けて「多品種・小ロットといった小回りを利かせていく」方針。輸入総代理店として特殊商材などユニークな商品をラインアップしていくことで、顧客ニーズに幅広く応えていく。